



Title	モンゴル国の代表的な反核運動団体の紹介
Author(s)	箕原, 丈
Citation	モンゴル研究. 2013, 28, p. 72-73
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/102388">https://doi.org/10.18910/102388</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# モンゴル国の代表的な反核運動団体の紹介

箕原 丈

2011年5月、核廃棄物の最終処分場建設が秘密裏に進められていることが『毎日新聞』で大きくスクープされて以来、反核団体がフェイスブックでの活動を中心に複数立ち上がった。その中で福島第一原発事故直後の最も早い時期から多様な活動を積極的に続けている団体を紹介します。

## ゴロムト反核運動 NGO (Голомт - ЦЭХТББ)

2011年6月、「アンチ・ニュークリア・ムーブメント (ANM)」としてフェイスブック上で活動をスタート、2013年3月、アリオンボルドを理事長とする「ゴロムト<sup>\*</sup> 反核運動 NGO」(モンゴル国政府登録 NGO) に名称を変更して活動を継続中。

メンバーは、モンゴル国・米国・ドイツ・英国・ブラジル・日本・韓国・オーストリア・スイス・オーストラリアなどで学び、働く市民で構成されています。いかなる政党・政治活動とも距離を置き、活動資金は、政党・政治団体・企業などからの献金ではなく、内外のメンバー・支援者の援助によっています。

主な活動は以下の通りです。

2011年3月31日、核廃棄物をモンゴル国で最終処分する計画があることを米国 NTI 情報チャンネルで入手、翻訳をウェブ上に公開。

2011年6月、フェイスブック上に「アンチ・ニュークリア・ムーブメント」グループを立ち上げる。

2011年7月10日、ロサンゼルス在住のモンゴル人のナードム会場で情報コーナーを設置、「モンゴルに原発は必要ですか?」「モンゴルで核廃棄物を処分しますか?」などのアンケートを実施。

2011年8月6日、広島原爆記念日に「10万羽の折り鶴」写真展。

2011年8月16日・19日、ロサンゼルスでモンゴルにおける核廃棄物の最終処分に反対するデモを行い、日本国総領事館に反対の意思を表明する手紙を送付、オバマ大統領にも手紙を送った。

2011年8月18日、米国ジョー・バイデン副大統領のモンゴル公式訪問時、反対デモに参加。

2011年11月11日、ビデオ・コンテスト「ノーニュークス・アジア」に参加。

2012年3月11日、福島第一原発が事故から1年、反核マスク・デモを実施。

2012年4月26日、チェルノブイリ事故から27年、「忘れるな! 繰り返すな!」デモ。

---

\* 「ゴロムト」は、祖先・ルーツ、また震源など、あるものが誕生・発生した場所・中心・基礎といった意味をもつ言葉です。また、火の神が宿る「かまど」の意味もあり、神聖なニュアンスをもっています。

2012年5月、アレバ社がウラン探査を行っているドルノゴビ県で線量を測定。

2012年8月、ウラン採掘が行われていたドルノド県マルダイで線量を測定。

2012年11月、『ゴロムト』新聞創刊。創刊号は3000部発行し、ウランの探査・採掘が行われている地域を中心に無料で配布。

2012年11月、ジャーナリスト西谷文和氏とドルノド県で再度線量測定を実施。

2013年3月9日、福島第一原発事故から2年、安倍首相のモンゴル国訪問時、「ウランは掘らん」「ウランは売らん」「原発？ 私たちにはいりません」「私たちは福島市民と連帯します」というプラカードを掲げた。

2013年3月21日、ゴロムト反核運動 NGO が政府登録。

2013年4月、NGO のメンバーがドイツのフランクフルトにおいてモンゴル国で起こっていることに関してレクチャー。

2013年5月、アレバの子会社によってウランが採掘されているドルノゴビ県オランバトラハ郡で遊牧民にインタビュー、線量を測定、核問題について情報を伝えた。非常に多くの情報・証拠を集め、ウランバトルに戻り情報発信、記者会見を行った。また、ガル・ウンデステン NGO が再度ドルノゴビ県に行く際、援助を行った。

上記活動のほか、2011年3月以降、核問題に関する記事をウェブサイト golomt.org に多数掲載。10本余りのドキュメンタリーを翻訳し、テレビやネットで公開し、国民に無料で配布しています。さらに、テレビ番組や新聞のインタビューに答えるなどウランと原発の危険性について国民に広く情報発信を行っています。

## ゴンボジャブ・アリオンボルド (Гомбожавын Ариунболд)

1972年 ナライハ市生まれ

1990年 モンゴル国立大学付属数学特習コース

1994年 同大学卒業

1996年 同大学大学院にて理論物理学修士号を取得

2000年 チェコ・オロモウツ市パラツキー大学大学院にて博士号を取得

2011年 米国テキサス州 A&M 大学にて博士号を取得

A&M 大学、アリゾナ大学、ドイツ量子光学マクス・プランク研究所で量子物理学とレーザー物理学を研究、2013年からモンゴル国立大学物理学部で教鞭を執っている。

海外の研究者と共にレーザーを利用して炭疽菌を瞬時に検知する新しい技術を開発。モンゴル人が健康で暮らせる権利を守るため積極的に活動しており、2013年3月、ゴロムト反核運動 NGO 理事長に就任。

(みのはら じょう)